

運命

校長 萩原 哲也

早いものでもう2月。今の学年の、11か月目に入りました。まだまだ寒い日もありますが、「鬼は外福は内」の豆まきをした次の日から、暦の上では春。少しずつですが、暖かくなります。こういうと、今日もそうですが、お日様が明るくなってきていることに気が付く人もいるでしょうか。

さて、いきなりですが、今日のお話は、曲名当てクイズからはじまります。これから流す曲の題名をお考えください。……答えは、漢字二文字です。……

答えは、「運命」です。曲名を知らなかった人も、この印象的なフレーズは、どこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。正確には、ベートーヴェンによる交響曲第5番ハ短調、「運命」と言います。

このフレーズが合う場面は、どんなときでしょう。どんなことしているときのBGMになりそうですか？縄跳びをしている時？友達と笑い合っている時？……ちょっと違いますよね。

例えば……

○テスト。答えをすべて書き、「よしっ！」と思って提出したら、名前を書き忘れたことに気付いた時。

○明日学校に持っていく物を忘れない様に、机の上に出しておいたのに、ランドセルに入れるのを忘れ、教室に着いてから、それに気付いた時。

○500円をもって買い物に行き、計算しながら買ったのに、レジに行ったら消費税が加わって「504円」、お金が足りないことに気付いた時

どれもこれも、ショッキングな場面ですね。このフレーズは、ショッキングな場面、マイナスの場面に合っているようです。

では、次のメロディ。今度は曲名当てではありません。どんな場面に合いそうか、どんな時のBGMにふさわしいか、考えてください。……いかがですか。先程と違って、マイナスの場面ではなく、明るく、頼もしい感じを受けませんでしたか。例えば、体育の徒競走で一着になった時、頑張ったテストで、満点を取れた時、長い間頑張ってきたことが報われた時……。一つ目のメロディとは、ずいぶん違った感じになりますね。

実は、二つ目の曲も、一曲目と同じ第5交響曲。楽章とって、長い曲の、違う部分のメロディで、初めのフレーズは、第一楽章、二番目のフレーズは第二楽章です。ショッキングな部分と、明るく前向きな部分とが、同じ曲の中に、あるのです。

ところで、もう一度、曲の題名を確認しましょう。「運命」。「運命」って、どういう意味ですか？

「運」とは、皆さんの言葉でいうと「ラッキー」ということ。ツイていることを表します。そのため、「運命」というと、あらかじめ決まっているも、変えられないもののように思われがちですが、そうではありません。あらかじめ決まっている、人それぞれの人生のことは、「宿命」、宿題の「宿」に、「命」がつく言葉。日本語では「さだめ」といいます。

運命は、「命を運ぶ」と書きます。「命を運ぶ」……運ぶのは誰？などと、考えるまでもありません。命は一人ひとりのものですから、運ぶのは自分自身、他の誰でもありません。私たちは全員、命を毎日、

運んでいるのです。運んでいる日の中には、荷物が軽く感じられ、スイスイ進める日もあれば。荷物が重たくて、足元しか見えず、ゆっくりとしか勧めない日もあります。

それでは、私たちはその「命」を、どこへ運んでいくのでしょうか。

「希望」とか、「目的」とか、言ってしまうとカッコいいのですが、間違いなく言える答えは、「明日」。「運命」とは、明日へ命を運び続けることであり、「明日へ命を運び続けること」を、「生きる」と言います。

そんな「命」という名の荷物を、乱暴に運べば、傷ついたり、形が変わってしまったりします。大切に運べば新しい芽が出たり、より豊かなものになったりするものです。

また、誰かに運ばされている、ひっぱられるようなイメージであったとしたら、方向は変わらないかもしれませんが、自分が運び進んでいる以上、そこで出会えるさまざまなものにより、方向は変わっていくものです。力の入れ方で、少しずつ方向が変わっていくこともあります。

緊急事態宣言が延長され、世の中全体が未だに、大変な時間を共に過ごしています。「こんな時期に生まれるなんて、ついてない」「オリンピックを目指して頑張ってきたのに。」「いつになったら元通りになるのだ」等々、つらくしんどい時期もあります。が、いつかは必ず明るく進める時間が訪れます。一つの曲の中に、山あり、谷あり。まさにそれが、運命であり、生きる、ということです。

「運命」の別名は、「シナリオ」。お芝居の台本のことです。自分の人生のシナリオをどう進めていくのか、自分の命を、どう運んでいくのか、ディレクター・監督は、皆さん自身です。

今の学年での生活も、あと6週間ほど。締めくくりまでしっかりと過ごしていきましょう。